

## 第 1 回 操縦士・航空整備士の女性活躍推進 WG 議事概要

日時：令和 6 年 10 月 9 日（水）14:00～16:00

場所：中央合同庁舎 3 号館 11 階特別会議室

出席者：

（委員（行政以外））

松尾委員、白河委員、李家委員、藤井委員、多田委員、松田委員、和田委員、森本委員、  
浦松委員、大塚委員

（行政）

航空局 北澤安全部長、梅澤安全政策課長、木内参事官（航空安全推進）、藤林乗員政策室長、  
藏安全政策企画官

事務局からの資料説明後、意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

（1） 共通

- 航空のような安全を重視する業界においては、人材確保対策の一環としてのみならず、リスクマネジメントの観点からもダイバーシティの確保は重要。操縦士・整備士の分野は世界的にも女性の割合が少ない傾向にあるため、このWGをきっかけに日本が操縦士・整備分野において女性活躍の先進的な存在となれるよう期待したい。
- 結婚・出産等のライフイベントと、資格取得・機長の訓練等のキャリアアップのために経験を積む時期のタイミングが重なってしまうことが離職につながる可能性もあり、資格試験等の制度の柔軟性についても検討できるのではないかな。
- 対策を検討する上で実態調査は極めて重要であり、調査にあたっては、データ収集だけではなく、ヒアリングやアンケートを通じて可能な限り確認を行うことがよいのではないかな。

（2） 操縦士関係

- 安定的な操縦士の養成機関である航空大学校については、女子学生を受け入れる姿勢を示すため、①寮の環境改善など学生にとって魅力的な施設の整備、②女子枠の設置、③操縦士に求められる要件の変化に応じた入学試験の内容の再検討、④出願資格となっている身長制限の再検討などの対応が考えられるのではないかな。
- 操縦士・整備士ともに女性の割合は徐々に増加傾向にあるものの、例えば我が国は操縦士の女性比率が 1.7%、客室乗務員の男性比率が 0.2%と低いことが示すとおり、職業に対するアンコンシャスバイアスが影響している可能性があり、更なる活用推進に向けて実態調査の結果を踏まえたアンコンシャスバイアスへの対策も重要
- これまでの調査はエアラインの状況だけなので、海上保安庁などの公官庁、ドクヘリ・防災ヘリ、その他ジェネラルアビエーションの運航者の女性操縦士の状況などについても実態調査をしていただきたい。

（3） 航空整備士関係

- 妊娠・育児等に対応した制度等の優良事例の他社への展開や、業界全体での女性職員の

交流など、業界での有効な取組みも考えられるのではないか。

- 育児等の際は昼に勤務するため通常のシフト制の業務に入れず、孤立してしまう可能性がある。元の勤務環境に戻ることができるようになった時点での受入体制を充実させることも重要ではないか。またパートナーの転勤によって退職せざるを得ないなど、実態調査によって、定着が進むヒントが得られるのではないか
- 男女ともに専門学校志望者数が減少しているため、より若い世代や親世代へのアプローチを含めて認知度を向上し、操縦士とともにまずは裾野を拡大していくことが必要。

以上